

## 令和3年度第3回芦屋市社会福祉審議会地域福祉部会での意見まとめ（意見シートからの意見を含む）

該当箇所	ご意見	対応
施策1	JR芦屋駅や阪神の駅近辺など、行きやすい場所や近所に相談できる場所があればいい。	今後の取組を検討する中で、ご意見を参考にさせていただきます。 施策1にアウトリーチの取組を追加しました。
	民生委員には福祉を高める運動研究会で関係機関に相談したり、意見をいただいたりする活動があるが、本計画には全く書かれていない。	施策1と14の現状の欄に、民生委員・児童委員がつなぎ役を担っていることについて追加しました。
施策2 (意思決定支援を含む)	「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定ガイドライン」を特出しせず、「各所から出ている意思決定支援ガイドライン」など、まとめた方がいいのではないか。	「障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン」についても追加しました。
	ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を進め、尊厳のある最期を迎えることができるまちづくりができるとよい。高齢者だけでなく、元気な時に「明るく最期の暮らしについて考える」ことを芦屋市の文化にできるとよい。	ACPに関するご意見については、施策2の「計画策定に関する会議等での意見」に追加しました。
	事前指示書を行政と医師会が協力して進めている自治体もある。芦屋市も医師会と進めていけるのではないかな。	
	どうやって死ぬか、最終段階の意思決定をどう支援するかも地域の中で進めていくべき。	
	充実した看取りのためには、早い時期から関係を結んでおくということがとても大事	
希望の死に方、死亡時、財産分与問題についてなど、弁護士のような専門家が入ると、話が進むのではないかな。	今後の取組を検討する中で、ご意見を参考にさせていただきます。	
施策6	住民が集い、福祉に関して語り合える場づくりが大事とあるが、現実はどうかな。 福祉が考える集会所、行政が自治会をどう捉えているのか疑問 みんなが集まれる場所がないのが切実な問題	市として公共施設を新たに設置する方向にはないことも踏まえ、今まで居場所として利用してきた施設等に限定せず、広く地域にある資源を活用することに目を向け、より多くの人たちが参加できる居場所等の拠点の整備を進めます。
施策10	より広がりのある展開にしなければ、関係者だけが集まり協議して活動していくと読み取れる。できるだけ具体的な取組になっていくような記載をお願いしたい。	裾野を広げて多様な主体が参加する場であり、民間事業者や地域住民の参加を意識した記載に改めました。
	現状に法人が地域に取り組んでいる様子も少し記述してはどうか。	

該当箇所	ご意見	対応
施策14	民生委員の活動は住民の相談を聞く、行政などへのつなぎ役が基本なので、その旨を追加してほしい。	施策1と14の現状にその旨を追加しました。
施策18	民生委員が要援護者台帳の登録を担っている現状などの記載がない。	施策18の現状に追加しました。
	自治会での要配慮者名簿の受領を促していく取組など、具体的に書けないか。	取組の推進方針の内容を見直しました。
	緊急・災害時要援護者台帳の利用方法、個人情報保護などを当事者たちにしっかり伝え、当事者たちの声も反映できるような運用の見直しをお願いしたい。	見直しについては、当事者たちの声も反映できるよう丁寧に進めていきます。
	コロナ禍において今後の地域福祉をどうするかについて明確な方向性を書いていないので、「集う活動」についてどう考えるかを特記して書いてもいいのではないか。	「集う活動」については、今後、施策6と18の取組を進める中で整理していきます。
施策19	若者と地域が有事ではなく、いかに普段から関わり接点を作るのが大事だ。	色んな取組を通じて若者と関りを持ち続けられるよう、参加の機会をつくります。
	4～5月に若者企画を実施することについて、話し合いながら前へ進めていきたい。	検討チームで検討していきたいので、ご協力をお願いします。
全体	各施策のページに協働先を表記すると、行政が縦割りではないことが見えてよい。調整という手続きを踏まえた上で協働先を記載することで、計画の実行性が高まる。	関係課と調整の上、可能な範囲で課名を追加します（調整中）。
	全体的に「推進する」「努める」「目指す」の表記が多く、具体的に何をするのが見えにくい。どのように目標を達成していくのかを具体的に書き込める範囲で書いてほしい。	可能な範囲で具体的な取組について追加しました。
	この計画は誰が見るのか。もう少し分かりやすく工夫ができないのか。属性や重層的支援など、本当に難しい言葉	計画書の本編はどうしても難しくなるため、分かりやすい概要版を作成し計画の内容を啓発していく予定です。
	「地域住民」と言われても、見る人が「私」と捉えることができないのではないかと。何か工夫ができるか。また、「地域住民」の表記について、自分ごととして響くのは「芦屋市民」の表記ではないか。文脈や主旨に応じて「市民」でもいいかもしれない。	計画書本編では、「市民」は市全域に向けて発信する際の呼び名として、「地域住民」はある程度限定された地域に向けて発信する際の呼び名として使用しています。概要版を作成する中で、ご意見を参考にさせていただきます。
	我が事にできる、あるいは我が事でないことにも関心を持てるような関係づくりに広がるようなことを考えてほしい。	企画段階から関わってもらおうなど、参加の機会を増やしていきます。
若者企画	「若者から学ぶ芦屋の未来」イベントの経験を計画の該当ページに反映してはどうか。	若者企画は施策19で実践していくこととしています。
	若者に地域課題を説明し、何ができるか考えてもらう機会ができると良い。若者の力を発揮できる場所を作ることが大事（大人が頑張っている様子も伝える）	施策19だけでなく、施策12のアクションのプロジェクトや企画などでも若者と協働で取組を実践していきます。

該当箇所	ご意見	対応
	<p>概要版について、深い意味を反映した解説版、項目の解説よりももう少し考える素材としての概要版を作ること考えてほしい。見る人に着目し、この計画の理解が進むような「解説書」を心掛けてはどうか。</p> <p>地域で考える素材向けの概要版を単なる概要版ではなく、各委員の協力を得ながら作ることができるように。</p>	<p>概要版作成のための検討チームを募って作成しますので、ご協力や様々なご提案をお願いします。</p>
概要版	<p>概要版は推進目標を軸に、地域の小グループで話し合うための「問い」を記載するイメージで作成してはどうか。（中高生が理解できる程度 of 言葉にかみ砕く必要あり）</p> <p>「今、あなたのお住まいの地域の状況はどのような状況ですか？」</p> <p>「この推進目標は、あなたの思い描く目標とどの程度一致していますか？」</p> <p>「この推進目標を達成したら、地域はどのように変化していると想像しますか？」</p> <p>「この推進目標を達成するために、どんなことに取り組みたいですか？」など。</p>	<p>概要版を作成する中で、ご意見を参考にさせていただきます。</p>
当日資料	<p>当日資料の図に民生委員・児童委員を載せなくてよいか。</p>	<p>図を見直し、民生委員・児童委員を掲載しました。</p>